

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	伊勢路とがの奥鹿野線道路改良事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	02	道路橋りょう費
基本施策	市内道路網を機能的に強化する	目	03	道路新設改良費
		細目	346	道整備交付金
行革大綱の重点事項番号		4	細々目	53
担当部課	コード	191000	担当者氏名	岩野 庄司
	名称	産業建設部 建設2課	連絡先	43 - 2329 (内線) 254

**事務事業の概要(Plan)**

対象(誰を、何を)	伊勢路とがの奥鹿野線の利用者	※対象件数	1地区
成果(どうする)	より安全に工事路線を通行できる。		
根拠法令・要綱等	道路法		
開始年度	平成 18 年度	関連事業	
終了年度	平成 32 年度		
H21 事業内容	道路改良工事 測量設計 用地買収及び補償		
社会情勢の変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	奥鹿野
2 建設面積(延床面積)	計画延長L=2,800m
3 規模・構造	幅員W=6.5m
4 総事業費	500,000 千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

**事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)**

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値		
			H20	H21	H22	H23	
道路改良延長	m	目標	100	140	460	0	
			実績	100			140
			目標				
			実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
進捗率		執行业務費÷全体事業費	%	目標	18	34	50
				実績	16	36	
				目標			
				実績			

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求	
					(千円)
直接事業費計(A)	34,252	94,000	45,000	5,000	
Aの財源内訳	国庫支出金	17,126	47,000	22,500	0
	県支出金				0
	地方債	17,100	47,000	22,500	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	26	0	0	5,000
事業投入人件費(B)	1.0人 7,200	1.0人 7,200	1.0人 7,200	0.5人 3,600	
フルコスト(A)+(B)	41,452	101,200	52,200	8,600	

**事務事業の評価(Check)**

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		現道は国道165号から奥鹿野地区への主要道路で、同地区の生活基盤として活用されているが、幅員が狭く、山間部ではカーブが連続しており、対向できない区間が多いため地区外への通勤、通学に支障をきたしている。
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を <b>80%以上100%未満</b> 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 <b>有</b>	公図混乱を起こしている山林が存在するため、この部分を避けて通るルート選定と地元協議を平成22年度中に進める。
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】 <b>繰越明許費</b>	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	○
	【事業名】 地域活力基盤創造交付金事業	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	工事区間の道路に隣接して圃場整備された農地及び公図混乱を起こしている山林が存在するため、この部分を避けて通るルート選定と地元協議をすすめる。
昨年度の取組状況	【状況】 <b>計画のとおり進んでいない</b> 【詳細】 地形上、明確な変更ルートを選定できない。1.5車線道路として整備できるか再検討。

**今後の方向性(Action)**

担当課長氏名	中井 秀幸
事業の方向性	【方向性】 <b>手法改善</b> 【理由】 南部清掃工場建設に伴う、整備路線であり、また、奥鹿野地区の重要な生活道路であることから、道路整備交付金事業としては、本年度で事業は終了するが、公図混乱の為、交付金事業で改良出来なかった部分については次年度以降市単独費で整備を進めたい。
現時点における課題、その他	公図混乱により用地の分筆登記が不可能な箇所があり、全線を当初計画どおり整備することが出来ない状況である。今後同一区間への再度の補助金投入は不可能なことから、市単独事業により整備を行う以外方法はないと考える。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	用地については一筆買収も含め、取得方法を検討し、市単独費で用地取得を進めたい。 車道幅員については2車線の全線改良は事実上不可能なことから、1.5車線程度を確保できるよう計画を変更する。 平成22年度中に用地についての調査を行い、平成23年度に計画の見直しを行いたい。